

母の 676 ひろば

doshinsha / haha no hiroba



ことばのなかのこどもたち⑦／今井和子 2
 新シリーズ「あかちゃん とととと」を語る／三浦太郎 3
 大人と子ども、一緒に楽しむ性教育／アクロストン 4
 新刊紹介／那須正幹 6
 まるまるめいた日記⑥／種村有希子 7
 イラスト／はまのゆか

命の芸術

岡村幸宣

震災、集中豪雨、疫病……たび重なる災禍に、芸術文化にできることはあるのだろうか、もどかしい思いになります。埼玉県東松山市にある原爆の図丸木美術館も、今春、世界的な流行病拡大の影響を受けて、2カ月ほど臨時休館となりました。

丸木美術館は、「原爆の図」を描いた丸木位里と丸木俊が、誰でもここに来れば絵を観られるようにとの思いで創設した美術館です。開館から半世紀以上のあいだ、多くの人たちの支援で守られてきました。一時的とはいえ、命を想う場を、命を想うゆえに閉じるという決断は重いものでした。果たして休館の判断は正しいのか、最後まで迷いました。そして再開後は、再び感染者が増え続ける中で、扉を開き続けて良いのだろうかという新たな問いを抱えています。人間の五感で知覚できない、不可視の脅威と対峙することは、本当に難しい。

画家のパウル・クレーは「芸術の役割は見えるものを表現することではなく、見えないものを見るようにすることである」という言葉を残しています。天災と人災の区別が見えにくい近年、私たちの目の前から遠ざけられているものを、どうすれば引き寄せることができるのか。平穏で変わらぬ日常が「現実」なのか。もしかすると、その皮一枚下には、平穏とは似ても似つかぬ本当の「現実」が潜んでいるのではないか。位里と俊の芸術は、そうした見えない／見えにくい「現実」を可視化させる方法論だったのだらうと思います。

人類の歴史をひも解けば、芸術は楽しく、美しく、癒されるものだけではなく、悲しみも、苦しみも、怒りも、冷静なまなざしによる批判も、私たちの世界を豊かなものにしてくれます。

美術館の再開後、「原爆の図」の前の一室に、丸木位里の母で、70歳を過ぎてから絵筆をとりはじめた丸木スマの絵を飾りました。「めし」という簡潔な題。えさの入った1枚の皿のまわりで、ネコでしょうか、小さな生きものが7匹、8匹、夢中になって食べている様子を、真上から描いたほほえましい絵です。不安定な時代だからこそ、生きる力をみんなシェアしたい。そんな思いを展示にこめました。

1発の爆弾で10数万人の命を奪う原爆とは正反対の世界。けれども「原爆の図」とスマの絵は通底しています。命は宝。自分の命も、他者の命も尊い宝。みんなバラバラに、しかしつながって生きていくのだと、私は位里、俊、スマの芸術から教えられました。

(おかむら ゆきのり／原爆の図 丸木美術館学芸員)

ことばの

なかの

7

今井和子

いまい かずこ / 子どもことば研究会代表。二十三年間の保育士勤務ののち、立教女学院短期大学教授などを歴任。主な著作に『0歳児から5歳児―行動の意味とその対応』(小学館)『子どもことばの世界』(ミネルヴァ書房)などがある。

こどもたち

●散歩に出かけるとき、とてもはしゃいでいたとも子ちゃん(二歳七カ月)は、保育園の門を出たとたんに転んでしまいました。いつものとも子ちゃんなり、激しく泣いて、しばらくは起き上がれないのですが、その日は……

「すってん ころりと

すってん てん

ともちゃん

すってんころり しちやつた」

と言いながら立ち上がると、

「すつきり すっかり

すっから かーん」

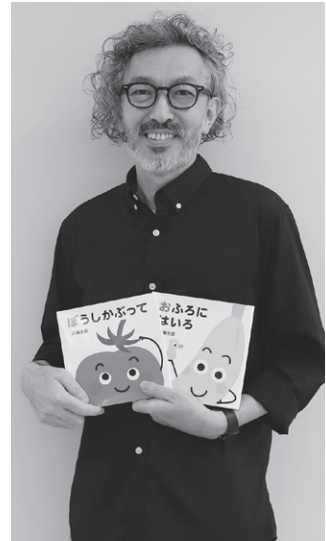
と友たちの方に走っていきました。

絵本が語る リズミカルなことばの持つ意味

この日の二週間くらい前から、とも子ちゃんは『かほのさかたち あいづえび』(ポプラ社)という詩の絵本を気に入ってよく読んでもらっていました。とりわけ「すってん ころりと すってん てん」ということばが気に入って、よく口ずさんでいました。

自分が転んだ拍子にその絵本のページとことばを思い出したのでしょう。それまでは、とも子ちゃんが転ぶと皆が待ちくたびれてしまうほど長泣きしていたのに、絵本に描かれていた子どもと同じようにリズミカルなことばを唱えることで、気持ちの切り替えができたようです。子どもの日常と絵本の世界は、まるで隣同士で、それほどに親密だったとは、またまた驚かされる出来事でした。

新シリーズ「あかちゃん」と「とととと」を語る 三浦太郎



ぼうしかぶって／おふろにはいろ
三浦太郎／さく・え 本体価格各800円＋税

新シリーズ「あかちゃん」と「とととと」がスタート！

『ぼうしかぶって』『おふろにはいろ』の二作が、九月に刊行となりました。創作にまつわるエピソードなど、さまざまなお話を三浦太郎さんに伺いました。

——今回の二作が生まれたきっかけのひとつに、「自身の子育ての経験があると伺いました。ぼうしもおふろも、実はお子さんが嫌いなものだったとか？」

あかちゃん向けの絵本ほど、子育ての思い出がもたことになることが多いですね。それも「こまったな〜、まいったな〜」という経験ほど、強く印象に残っているもので。ぼうしをかぶってほしいのに、かぶってくれない。お風呂に入ってほしいのに、なかなかお風呂にたどりつかない。そんな娘が小さかったころのことを思い出しながらつくりました。

——先にアイディアが浮かんだのはどちらですか？

『ぼうしかぶって』ですね。たべものたちのへたを

ぼうしに見立ててみたんです。まず、ぼうしをかぶっていい野菜やくだものがいて、ページをめくるとぼうしをかぶっている。そういうシンプルな展開です。はじめに頭に浮かんだのは、なすでした。それからパインナップル、かき、さやえんどうと、イメージが次々と出てきたので、下絵を描いていきました。なすはへたの形もおもしろいですし、何よりぼくの好物なんです(笑)。

——本来へたがついているたべものへたがない姿からはじまる、という斬新な展開ですね。

そうですね。へたがないと何のたべものか意外とわからなかったりしてね。野菜やくだものを今回モチーフにしたのは、小さな子どもたちにたべものの本来の姿にふれてもらえたら、という気持ちもあったからなんです。大人だっただんなかっこうで実がなっているのか知らないことも多いですけどね。「おいしいけど、これなあに？」っていう子どもたちが、いつも食べて

いる野菜やくだものがこんな形、こんな色をしているんだって、たべものへの興味をもつ入り口にもなるのではないかと思っています。

——『おふろにはいろ』はどのようにつくられましたか？

『ぼうしかぶって』を作っている最中にアイディアが浮かんで、あっというまにできちゃった、という感じでした。『おふろにはいろ』は、ぼうしを「かぶる」とは、いわば反対。服を「ぬぐ」ということがモチーフになっていきます。へたをぼうしに見立てたように、たべものの皮を服に見立てることが、うまくできました。たまねぎ、とうもろこし、そらめねなど、こちろも登場するキャラクターのイメージがすんなり浮かんできたんです。「すすすすす たまねぎの ばあさん かくぬいで」のうちに、連続した五音もびたつとはまり、『ぼうしかぶって』でつくった形をいかすことができました。たまねぎのばあさんはヒノキのおふろかな、なんておふろのバリエーションを考えるのも楽しかったですね。

——こちらには、ばあさん、じいさんが出てきますね。

『ぼうしかぶって』に、とうさん、かあさんが出てきますからね。自分の家族にぴったりそのままあてはまるわけではないだろうけれど、自分に近いキャラクターが出てくると大人も嬉しいと思うんですよ。

ぜひ家族みんなで読んでほしいですね。



QRコード→

性教育ワークショップの現場で

.....

「お母さんもセックスしたの？」

これは私たちの性教育ワークショップ（以下、WS）の最中に小学三年生の子が、お母さんへ発した一言です。この子が参加したのは、私たちが展開しているWSの一つである「いのちが生まれるしくみのはなし」。カラフルな布、ニット、刺繍糸、色紙などをつかって女性のからだ（子宮、卵巣、卵管、膣）や男性のからだ（ペニス、精巣、精管）を工作しながら、その仕組みを中心に性的話に触れていきます。ちなみに「女性のからだ」「男性のからだ」と書きましたがあくまでこれは生物学的なものです。」からの作りに関係なく、性別は自分で自由に決められる」とWSでは子ども達に伝えています。

受精の仕組み、卵巣・子宮の働きと月経、精巣のはたらきと射精について学んだ後に、私たちは子ども達にある質問を投げかけています。それは、「精子と卵子はどのようにして出あうかなっ」という問いです。WSに参加している子は主に小学校低学年から中学年。女子、男子、性別は様々で一緒に受けています。参加する大半の子はセックスのことを知らないのので、「精子が卵子へトトトト歩へ」と

か、「同じトイシに入ったら受精する」など色々な答えが返ってきます。

冒頭の質問が出た時はまず、「ちんちん同士をくっつける」という答えがありました。「女の子にちんちんは無いね」と私たちが返すと、別の子が「じゃあ、ここにちんちんをつける。」とちょっと

自信なさげに工作した膣の部分の指さしていました。「正解！ 膣にちんちんを入れるんだよ」と言うと、喜んだ感じで「そうか。そこでおしっこするんだ！」

と。「おしっこじゃなくて、さっき男の人の体で精子について学んだよね」と言われると、その子は「ちんちんから出る

大人と子ども、一緒に楽しむ性教育……アクロストン



イラスト／はまのゆか

妻と夫の、医師2人から成るユニット。工作を取り入れて性教育を「楽しく、ポップに、正確に」学ぶワークショップの開催や、公立小学校での授業をしている。小学生2人の親。著作に『いま、子どもに伝えたい性のQ&A』、2020年秋に小学校高学年から中学生の子を持つ親向けの本も出版予定（ともに主婦の友社）。Twitter、Facebook、Instagram、noteでも性的話について発信中。

やつ？」と先ほどWSでやったことを思い出したようです。そこで「そう！ それ！ 射精をして精子を出すんだよ」と答えると、みんな理解した様子でした。

この時、一人の子はこの事実を驚き、サツと後ろを振り返って「お母さんもセックスをしたの？」と質問していました。このやり取りは参加している子どもや保護者、全員が注目しており、なかなか緊張する場面でしたが、このお母さんはますます子どもを見て、落ち着いた表情で優しく答えていました。「だからあなだがここにいるのよ」と。

この返答は自分の子どもだけでなく、その場にいた他の子へのメッセージのようにも感じました。私たちのWSは単純に知識を学ぶ場ではなく、家庭で性について話していくきっかけ作りの場としてあります。だからこのやり取りを目にした時は本当に嬉しかったです。

私たちの活動のきっかけ

.....

私たちがこのような活動を始めたのは、わが子の性教育をスタートしようと考えたことがきっかけです。現在はスマホやタブレットから容易にアダルトコンテンツにアクセスすることができてしまします。本人にその気が無くてもポップアッ

ブ広告としていわゆるエロ漫画（成人向け漫画）、それも暴力的なものが流れてくることも少なくありません。暴力的なものに出会う前に、正しい性の話を知ってほしい。性に対して歪んだ認識を持ってほしく無いという思いからまずは良い教材を探し始めましたが、古臭い「女らしさ、男らしさ」が前面に出ているもの、「命の大切さ」だけに焦点を当てた感動系のもの、科学的に正しくないものが少なくありませんでした。

そこで自分で教材を作ろうと考え、このWSのスタイルを思いつきました。また、同年代の子を持つ友人たちから「性に興味があるものの、どうしたら良いのか分からない」という戸惑いの声を聞くこともあり、性教育についてみんなで共有することになり、妻・夫の二人でアクロストンというユニットを作り、WSを開催し始めました。他には学校で授業をしたり、SNSやブログ、書籍で情報を発信しています。

日本の性教育の課題

子どもの性教育について悩みを持つ方は、私たちを含めてたくさんいます。その一番の理由は学校での性教育が十分に行われていないことだと考えています。

ユネスコから性教育に関するガイドラインが出ており、そこでは健康、性暴力、ジェンダー、文化、生殖、パートナーとの関係性など多岐にわたる内容が載っています。また性教育は五歳からスタートし、各項目が年齢や発達に合わせて変化します。

日本で行われている性教育はどの程度か。まず公教育で性教育が開始されるのは、小学四年生。保健体育の授業で思春期の心とからだの発達や、月経と射精の仕組みを、五年生の理科で受精卵から胎児が育つ様子を学びますが、肝心のどうやって精子と卵子が出あうのかについては一切触れません。中学校では避妊や性感染症についての授業はありますが、セックスがどのような行為なのかは教えず、そもそも「セックス」という言葉自体も使用されません。若年者の望まない妊娠や性感染症がまだまだ存在するにも関わらず、実践的な内容を子ども達に伝えていないのです。また「命は大事」「自分を大切に」などのテーマで授業が展開されていることもあります。もちろん命や体は大事ですが、そのことを一方的に言われることで、自傷行為を繰り返している子は「大事なものを傷つけている自分はダメだ」と思い込んだり、虐待を受けている子は「自分は大切にされて



WSに使っている様々な素材



WSで作った女の・男の人のからだ



子宮に経血（赤い毛糸）を置いて生理のことを学ぶ



アクロストン2人のWSの様子

いない」と精神的なダメージを受ける可能性があります。日本の義務教育で行われている性教育には課題が山積みです。

楽しみながら学んでいくこと

ここまで私たちの活動やガイドラインなどについて書いたため、性教育は難しいことのように思っ方もいるかもしれませんが、そんなことはありません。

例えば「からだをきれいに洗おう」とか、「自分の気持ちも相手の気持ちも大切にしよう」というのも性教育の一つです。大人にとっても子どもにとっても、性的話は日常生活の一部で、特別なことではありません。「月経」とか「セックス」など教えるのに少しハードルの高そうにみえる言葉は自然科学の一部です。先入観の無い子どもにとっては「桜の花びらは五枚だね」や、「鳥は卵を産むんだね」といった話と差がありません。からだの仕組みについて興味を持っている子ども多いです。ありのままをストレートに伝えることをお勧めします。からだの仕組み、他人との関係性、ジェンダーのことなど大人も子どもも知らないことがたくさんあります。性のことを一緒に、ゆっくりと楽しみながら学んでいくのはどうでしょうか。

想像力と観察力

那須正幹

週に1度やってくる3歳になる孫娘が、私の胸元をつくづく眺めながら、「今日はワニさんがいないね」と言った。最初は何のことかわからなかったが、やがて私の着ているシャツについているメーカーのマスコットのことだと気づいた。なるほど先週身に着けていたカッターシャツには小さなワニの絵がプリントされていた。これをすばやく見て取り、記憶していたのだろう。子どもの観察力、記憶力というのは、なかなか馬鹿にならない。ショーウィンドーにかざってある小さな人形、チラシの隅っこに描かれた動物のイラストなど、おとなが気づかないようなものでも、目ざとく見つけるし、よく覚えている。

さらに言えば、豊かな想像力だろう。ぬいぐるみが、無二の親友となり、話し相手やグチの聞き手にもなってくれる。

今回の作品で、主人公のサムくんの推理の源が空色タオルハンカチにあるという設定は、わが子の思い出をヒントにしたもので、我が家の長男は、赤ん坊のころからタオルケットを常に口にくわえて、クチュクチュやっていた。幼稚園に通い始めてもやめないのので、母親がタオルケットを切って、ハンカチにして持たせたものだ。

長女も、赤ん坊のころから、画家の長野ヒデ子さんの娘さん手作りのネコのぬいぐるみをだっこし、寝るときは常に前足をクチュクチュやっていた。毎日口にくわえているので、ツバキで濡れそぼち、いやなおいを漂わせるのだが、本人にとっては、それがなんともよい香りに感じられるらしく、時折、こちらにもにおいをかいでみろと勧める。母親が洗濯でもしようものなら、泣きわめいて抗議する。

私はよく知らないが、いわゆる口唇期の延長かもしれないし、子どもがらの不安や心細さをいやす手立てだったのかもしれない。専門家の方なら、ちゃんと説明してくださるだろう。

今回出版した『めいたんていサムくん』は、子どもの観察力や想像力を前面に押し出し、小さな読者と共に、謎解きの面白さを共有したいという作者の想いから生まれた。

さらに言えば、文章にもそれなりの工夫を加えた。読み聞かせを卒業し、自分で活字を読むようになった読者のために、できるだけ丁寧な記述を心がけたつもりである。

探偵小説というと高学年向けがほとんどだが、中には低学年物もあってもいいんじゃないだろうかというのが、作者の本音ではあるが。

(なす まさと／児童文学作家)

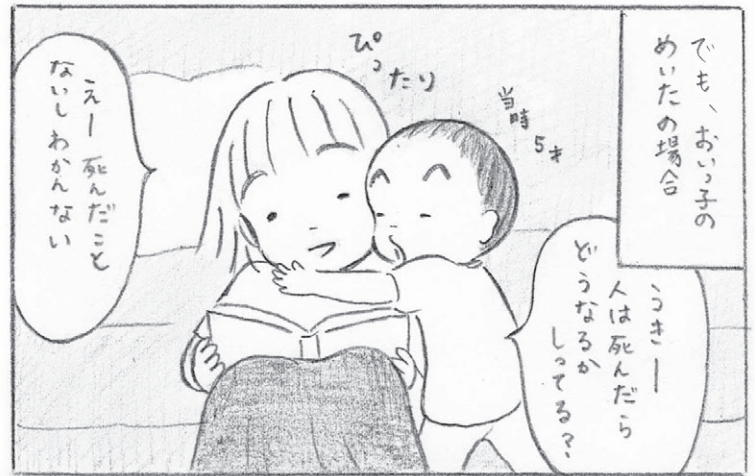
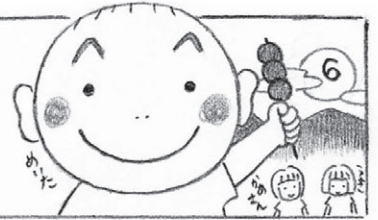


めいたんていサムくん

那須正幹／作
はたごうしろう／絵
本体価格 1100円＋税

まるまるめいた日記

種村有希子



↑ 絵にするとすごい奇妙

9月の新刊図書・紙芝居

あかちゃん ととととと ぼうしかぶって

三浦太郎／さく・え
本体価格 800円＋税



なすの父さん、たたたた。さやえんどうの兄弟、ばばばば。ぼうしかぶって行ってきまーす。一緒にお出かけしたくなる絵本。

あかちゃん ととととと おふろにはいろ

三浦太郎／さく・え
本体価格 800円＋税



ばばばば、へへへへ……そらまめの三姉妹やバナナの親子がふくぬいで、おふろにはいろ。みんなとっても気持ちよさそう！

だいすき絵童話 めいたんていサムくん

那須正幹／作
はたこうしろう／絵
本体価格 1100円＋税



きえた人形はどこにいったの？ どんな事件も、サムくんにおまかせ。空色のハンカチのにおいをかいで、さあ、なぞときだ！

はる・なつ・あき・ふゆ たのしい園生活(全6巻)
身体測定、水遊び、夏祭り、遠足、運動会、大掃除。春夏秋冬1年間の園生活をあつめた紙芝居セットです(全6巻)。

おばけのしんたいそくてい ①
莉田澄子／脚本 長谷川知子／絵 12場面

ちいさいプールのチャプン ②
津田真一／脚本 はやしますみ／絵 12場面

こんやは なつまつり ③
かわしまえつこ／脚本 松成真理子／絵 12場面

きつねのえんそく ④
はせがわさとみ／脚本 市居みか／絵 12場面

どんぐりのうんどうかい ⑤
あべしまこ／脚本 夏目尚吾／絵 8場面

おそうじ おそうじ おおそうじ ⑥
すとうあさえ／脚本 くすはら順子／絵 8場面



全6巻セット価格 10400円＋税
12場面 本体価格各1900円＋税／8場面 本体価格各1400円＋税

2020年9月15日発行(毎月刊)
母のひろば 第676号
定価50円(年600円／送料とも)

発行所: 童心の会
〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6
株式会社童心社内
電話: 03(5976)4181
03(5976)4402(編集)
編集発行人: 大熊悟
童心社のホームページ:
<https://www.doshinsha.co.jp/>
デザイン: 谷口広樹

定期購読のご案内

おハガキにてお申し込みください。下記QRコードからもお申し込みいただけます。見本誌(無料)と振込用紙をお送りいたします。

見本誌に同封されている振込用紙で購読料をお支払いいただけますと、手続き完了となります。購読料金は1年分600円(送料とも)。



あとがき

●「特別な夏」が終わると特別な秋になり、やがて特別な冬がやってくるのでしょうか。コロナ禍の先行きは見え、去年のことを思うと台風被害も心配です。東の間の夏休みを過ごした子ども達にとっても不安な日々が続いていることでしょう。せめて私達は、子どもが楽しく温かな気持ちになれる本・紙芝居を全力でつくっていければ、と考えています。 ①

●雑誌「作文と教育」(日本作文の会・編)最新号で、コロナ禍での小中学生の日記・作文・詩を読みました。率直な思いで綴られた、休校中の退屈さや苦しさ、それを乗り越えようとする逞しさ、そして学校再開後の溢れんばかりの喜び……気持ちのこもった等身大の文章に胸を打たれました。1日でも早く子どもたちが安心できる日が訪れてほしいです。 ②